

1 開会（副委員長）

2 教育長あいさつ

（小学校のあり方検討委員会の説明）

3 委員長あいさつ

検討委員会では、これまでいただいた町民の皆さんのご意見を踏まえて検討を進めてきており、ある程度の方向性が見えてきたため、それについて、できるだけ多くの立場からのご意見をいただいたうえで答申をしたい。忌憚のないご意見をいただきたい。

～検討委員紹介～（学校教育課長）

4 報告（教育主幹）

「第1回検討委員会から本日までの経緯について」

5 協議（座長：委員長）

【説明】・小中一貫校と義務教育学校の違いについて

（教育主幹）

小中一貫校は今の学校体制を維持したまま教員が授業研究で交流し、町が目指す姿について協議しながら一つの方向性を確認して9年間の義務教育を見通して子どもたちを育てていくもの。形としては、同じ敷地にある所もあれば、別々の場所でそれぞれの教育活動を行う所もある。それぞれの学校に、校長・教頭がおり、教育活動を進める。2つの集団が1つの目標に向かって同じ教育活動を進めていく。

義務教育学校については、校長は基本1人。9年間を前期課程（小学校でいう6年間）と後期課程（中学校でいう3年間）に分け、1つの学校で教育課程を進めるにあたって、教頭や養護教諭が複数いる。教育課程もある程度柔軟に組むことができ、それぞれの学年で学ぶことを入れ替えながら進めることができる。教員の免許は、原則として小中両方を持っている必要がある。（今のところは小中のどちらかの免許を持っていれば認められている。）

（委員長）

具体的な事例として、小中一貫校としては、西川町の西川小学校と西川中学

校。校舎分離型だが、カリキュラム上連携して教育活動を行っている。

義務教育学校は最上を中心に数校ある。元の新庄市立萩野小学校と萩野中学校が1つになって萩野学園になった。明倫中学校は2つの小学校と1つになって明倫学園になった。戸沢村でも戸沢小学校と戸沢中学校で戸沢学園がある。西村山地区でも動きがある。令和10年から、朝日町で、現在の小学校3校と中学校1校を1つにして、朝日学園を作ろうと進めているところ。

(委員長)・児童数のスライド(P12)の見方について確認

参考までに、昨年度町内で生まれた子どもの数は67名。ただし、この人数がそのまま入学者数になるかは分からない。転出入での増減があると思われる。いずれにせよ、町全体で60から70名前後になると予想される。

### 【意見交換】

- ・平成29年度の考える会に委員として参加した。当時の会議のグループ協議の際、統合を考えたときにどのようなことが検討事項かと話し合った。自分のグループでは1校にすると考えたが、委員の中からは「大きな学校に小さな学校が統合されることが嫌だ」「小さい学校の子どもが肩身の狭い思いをする」という意見が出たと印象に残っている。複数校とすれば将来また考えなければならないため、1校にする方がよいと思うが、どこかに吸収合併されるのではなく、すべての学校の子どもの1つにまとまり、河北町の一員として一緒に学んでいけるのがよい。小さい学校の子どもの委縮することなく学べるように考えるべき。幼児教育段階では学区を超えて過ごしているが、小学校ではそれぞれに分かれており、中学校ではまた一緒になるため、河北町の一員という意識で学んでいける環境が望ましい。
- ・河北町としても子育て対策を含めて話をしてほしい。今後、子どもの数が増えていくことが現実的にあるかは分からないが、数が増えていったときに1校でよいのかということも考えるべき。

(教育長)

今現在、町の人口は17,500人を切っているが、第8次河北町総合計画では、令和40年に人口を16,500人<sup>\*</sup>に維持しよう計画している。どこの自治体でも人口減少を緩やかにしようと対策を立て、自治体間で競争している現状。町内の事例としては、谷地中部学区のひな市通りは区画整理が行われて、人口とともに谷地中部小の児童数が増えている。このことから、区画整理を進めて住宅地を増やせば若干の人口増、減少率を緩やかにすることができると思う。

(谷地中部小校長) 令和5年度は児童数369名。ひな市は180~185名、隣接する北口北は35~40名ほど。昨年度は75名、今年度は46名の児童が入学し、来年度はまだ確定ではないが、67,8名の入学予定者である。ここ数年間は400名

近い児童数の推移で、袖屋敷や若葉町などは住宅造成地の影響で増えているが、地区によって減少しているところもあり、児童数の増減が激しい。

- ・このような検討会議をしなければならぬのは人口が減ってきているからであり、それぞれの地区で成り立つのであれば何も心配しなくてよい。この現実には仕方がない。町内会も間もなく成り立たなくなるのではないかという切ない現状。これからは、「自分の地区が」という意識を「河北町で」という意識に変え、それぞれ助け合い協力していかなければならないと思う。適正規模も考えると、それぞれの地域で大切にしてきたものも含めて、「河北町は1つ」という意識で1つにまとまったほうがよいと思う。
- ・小学校を1つにまとめる意見には反対。できれば、子どもが自分で歩いて行けるところに学校があるのが理想。近くにある小さい学校で学び、大勢いたほうが学習効果も上がるというときにスクールバスを使って活動するという意見にはなぜならないのか。1つの学校にまとめることに意見がなだれ込んでいるので、それには反対。学校になじめない子どもや行けない子どももいて、1つに集約すると余計にこぼれる子が増えてくると思う。小さい学校でもっときめ細やかな教育ができれば、こぼれる子も減るのではないか。学校になかなか行けない子の気持ちを考えてほしい。それを切り捨てるように話を進めないでほしい。

(河北中校長)

410名の生徒がいるが、不登校傾向の生徒も数名いる。学校の職員はもちろん、スクールサポートスタッフという教員以外の立場の方も対応して支援している。多様性に対応するためには、多様な指導体制も必要になる。学校が小さくなれば、多様な体制もとりにづらくなると思う。

- ・学校に行けない子を学校に戻そうとするのはなぜか。なぜ子どもが学校に行けなくなったのかを考えようとしていない。なぜ行けないかと子どもを追いつめている。できれば子どもが安心していられる、誰でも行ける居場所を町で作ってほしい。世の中の潮流では、テレビのドキュメンタリーで田舎に住まいを移して子どもを育てる人もいる。そこに子どもが増えているのはなぜなのか考えてほしい。子どもが減っていったら集約し、簡単・便利とただ効率を求めていると思う。学校の体制もあるとは思いますが、もっと町に力があると思うので、教員だけではなくボランティアを募るなどして、大きい方ではなく小さい方を目指すことを考えてほしい。
- ・なるべく早く1校に統合してほしい。これから入学する子どもがいるが、参考資料を見ると1つの学年に2名しかいないことになる。気の合う子同士・気の合う先生なら問題ないが、気が合わない場合は逆に学校に行きたくない理由になってしまうかもしれない。もっとたくさん子どもがいる学校に入れ

たいと考える。

- PTA 会長をしていて、様々な声が聞こえてきている。参考資料を見ると令和6年度の入学者数は6名。その子どもが学校を卒業するまで学校はあるのか、保護者側は不安に思う。先生方は、少人数でできる最大限のことをしてくれており、この学校でよかったと言う児童もいるが、これからの児童数の推移をみると、同級生がいない、いても気が合わず学校に行きづらくなる状況も考えられる。少人数では、良くも悪くもその中でつながりが大きくなるため、大きい学校だとまた違う環境になるのではないかと思う。

いずれこうなるのが分かっているのであれば、何かしら動いていく必要がある。具体的に、令和何年度に河北町の学校を1校にすると示してもらえれば、保護者も安心する。先ほどあった吸収される形での統合の話が出たが、子どもたちに来月からあそこの小学校だと伝えるようなことは言えないと思うので、進め方は配慮してほしい。

- 先ほど、統合された場合の人間関係や不登校の不安について話があった。自分の子どももクラス替えがない状況。それが合う子もいれば、ちょっとした人間関係の問題の積み重ねから、学校に行くのが辛いという子もいるようだ。小さい規模だとクラス替えできないので、1校統合に賛成。通学の面でも、同じ地区に子どもがいないので、一人になってしまうことが心配。今、河北町でも不審者が増えていて怖いので、統合してスクールバスなどの活用があれば安心。(谷地西部小校長) 複式学級は、国の基準により、人数が少なくなると2つの学年が一緒に勉強するというもの。本校では、1,2年、3,4年、5,6年とそれぞれ複式で勉強している。1つのクラスに教員が1人しかつかないため、教員が面倒を見られるのかと心配されるが、これからの世の中を生きていくうえで必要な力は、自分達で考えて行動していくこと。複式学級では担任がつかないときに自分たちで授業を進めていくため、友達と協力しながらその力を育成している。ただ、多様な人とふれ合う機会がなかなかつくれないことが課題なので、地域の方や他校との交流で力をつけられるように教育活動を組んでいる。
  - 1人での登下校が心配という意見があったが、集団の登下校も心配。集団で仲間割れしたり、通学路の指定があって融通が利かなかったりする。世の中の流れを見ると、保護者の責任で送迎していくようになるのではないか。集団登下校は無理になっているように感じる。
  - 検討委員会の中でも、学校内の子どもたちの気持ちを聞くべきという話になったが、その後どうなったか。
  - 子どもの気持ちは大切にしたいことだが、慎重に進める必要があるという意見もあったと思う。
- (谷地南部小校長) 校長会でも話し合った。子どもたちは今の学校に愛着を持っ

ている。今ある学校をいかに良くするかと考えている子どもたちに、今後の小学校をどうするかという責任を委ねるべきではないと思っている。そのため、子どもたちには聞いていない。

- ・検討事項として、デジタル活用をもう少し考えていく必要がある。例えば、不登校についてだが、自分は不登校という言葉を使いたくない。デジタル活用を進めたうえで、デジタルクラスを作ることを検討してほしい。

また、小・中学校だけでなく学童も合わせ、教育・子育ての一貫性をもって全体を考えたいと検討してほしい。

さらに、令和6年度以降の学校規模について、例えば1校で児童数500人、2校250人ずつ、2校400人と100人に分けた時など、それぞれの規模と体制の好事例や課題を示してくれれば、議論の幅が広がるのではないかと。事例を示してもらえないと分からない。今後、可能であれば事例を示してほしい。

- ・学童の子どもから「学校が大きい1つになるんでしょ？」と聞かれて驚いたことがある。学童に関しては各施設がどうなるか自分たちにも分からない。学校が1つになった場合、学童も大きいところにまとまりみんなで関わるなど、様々な方向性が考えられる。今後、子どもたちからどうなるのか聞かれたときにどう対応したらいいか考えている。統合にふれて地域の方々に学校のことを話し合う会もあったが、学童の存続や共働きの不安など広がっていったので、今後そのような話題にどう対応していくか考えていく必要がある。
- ・学童の中では、学校の違いに関係なく子どもたちが関わっている。将来的に学校を1校に統合するとしても、子どもたちにとっては不安より楽しみが大きいのではないかと。子どもたちはたくましく交流して成長しているので、周りに関わる大人の進め方次第であり、不安な面は大人がサポートしていくべき。学童の今後についても検討事項に入れて考えられれば助かる。

(教育主幹)

現在取り組んでいることとしては、国の通知を受けて、民間施設等との不登校の指導要録上出席扱いとするガイドラインを町教育委員会で作成中。その中にフリースクール等民間施設または学校教育の中で医療機関の受診が必要な場合、さらにICTを活用しての授業を出席扱いにしていこうという取り組みを進め、町でもその詳細を検討しているところ。一人一台端末も整備されているので、実際に学校ですでに取り組んでいるところもある。

学校規模については、1つになるとすれば寒河江中部小と同じくらいの規模になる。しかし、寒河江中部小は現在どんどん大きくなっており、現時点での比較からは数が増えていく可能性がある。資料をどのように活用するか検討していく。

- ・もし統合としてまとまり、特に小さい学校の子子どもたちが今までの少ない人数

の中から大人数の集団に入ったときに、子どもたちが苦しい思いをしたり委縮したりしないように対応してほしい。どの学校からの子どもたちにもそれぞれの居場所があり、活躍できるように、町として取り組みを考えてほしい。

周りのサポートも大切だが、その前の段階として、みんな一緒だという取り組みを行って同じ校舎に入ることを進めてほしい。一人一人の子どもの顔を確認しながら進めていくことが大切。

(教育長) 仮に統合を進めるという場合は、それに向けて実施計画を立てる。例えば、今ある学校同士が交流学習を行い、子どもたち同士が学校をこえて友達になり、安心して一緒になれるようにするなどの取り組みを計画していく。中学校では、各小学校から入学してきた子どもたちの様子はどうか、前校長、現校長にお聞きしたい。

(副委員長) 河北中学校は、子どもたちが6つの小学校から毎年1つにまとまり、今は400人ほど、一番多い時には960名の生徒が生活してきた。小さい小学校出身生徒の保護者はうまく馴染めるかと心配するが、実際は、子どもにもよるが、小さい学校から来たから馴染めないということはなく、かえって新しい人間関係を築けて生き生きする生徒もいる。また、大きい学校から来たから不登校にならないとは言えず、学校規模と友達関係だけが不登校の原因になるわけではない。学校規模による影響については、子どもたちはうまく順応していると感じた。もう一つの大きい学校の良さといえば、様々な面から多数の目で子どもたちを見て、情報共有できることだと思う。

(河北中校長) 子どもたちの置かれている環境、人的環境はとても大きな影響がある。固定された小さい集団で育つこともあり、大きい集団の中にもあり、置かれている状況の中での社会性・多様性がそれぞれあって、さらに規模の大きい小さいにかかわらず、一人一人の特性もある。それを多くの先生が見て、多くの友達と関わって、考え方を広げたり深めたりすることによって、豊かな人間性が培われていくと思う。現在410名の生徒がいるが、小学校区ごとに分かれているなどということは全くない。クラスでも、任意加入制になった部活動でもそうである。様々な場面で集団を経験することはとても大事なことで、そこに様々な人の目や心が入って一人一人が育っていくと思う。

複式の学校はきめ細やかな指導はできるが、多様な人を受け入れて、多様な人に対応する力を身に着けることはどうしても弱くなる。子どもたちの交流や保護者の皆さんのコミュニティーの交流も大切なので、交流を仕組んでいく必要がある。

- ・自分の子どもが小学校に入る前に、学区にある保育所がいっぱいなので別の地区の小規模の保育所に行くことになったが、小学校に入学するときには何の問題もなく過ごせた。また、中学校に入学するときにも、同じ小学校の子がい

るようにクラス編成を配慮してくれていると感じた。学校間で情報を共有して考えてくれていると感じた。

(委員長)

今日は、貴重なご意見をたくさんいただいた。話し合うための材料が不足していたという反省点もある。今日いただいた意見をもとに、狭い範囲でなく、学校に行かない子について、学童・幼稚園・中学校との連携、谷地高との関連性、地域との関わり、給食、通学についてなど再度検討委員会で話し合っ答申にまとめ上げ、今年度中に教育長にお答えしようと思う。たくさん意見を十分に生かして、一つの方向性だけでなく、いただいたご意見が生かされるように進めていくことを約束したい。

## 6 その他

(教育主幹) 次回以降の検討委員会について説明

第6回検討委員会(10月中)

第7回検討委員会(11月10日)

※2030年度(令和12年度)時点の将来目標人口については、河北町人口ビジョンにおいて推計した将来人口に準じ16,600人